



Protobothrops mucrosquamatus



Protobothrops elegans



Ooophis okinawensis



Hebius pryeri



Ashalinus weneri



Protobothrops flavoviridis



Cyclophiops semicarinatus



Lycodon semicarinatus



Indotyphlops braminus



Elaphe taeniura friesii



Sinomicrurus japonicus boettgeri

Snakes of Okinawa Island



沖縄島に生息するへび



【外来種】
ブラーミニメクラヘビ 原産地:不明 10~20cm
 学名: *Indotyphlops braminus*
 体は褐色または黒褐色で、鱗には光沢がある。体鱗列数は20。アリやシロアリの卵などを食べる。ミミズとは違い体節がなく、鱗に覆われ、舌を出し入れすることから本種と判別できる。へび類で唯一オスが存在せず、メスのみで単為生殖をする。原産地がどこであるか判然としていないが、南アジアという説がある。



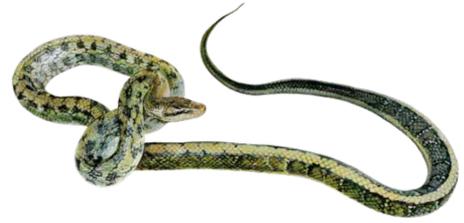
アマミタカチホヘビ 40~60cm
 学名: *Achalina werneri*
 背面は褐色または黒褐色で、正中線に沿って1本の黒い縦条があり、腹面は橙黄色。体鱗列数は23。ミミズを食べる。湿度の高い森林内に生息する。開発による生息地の破壊、道路および道路脇の側溝による生息地の分断などにより生息数は減少している。**準絶滅危惧 (NT)**



リュウキュウアオヘビ 70~90cm
 学名: *Cyclophiops semicarinatus*
 背面は緑色または灰色がかかった黄緑色で、腹面は黄色。体鱗列数は15。ミミズを食べる。平地から山地にかけての森林や水辺などに生息する。昼行性だが、夜間にも活動する。性質はおとなしく、自ら攻撃することは稀。オーナジャー(沖縄方言名)。



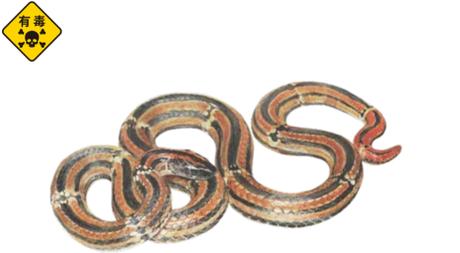
アカマタ 80~170cm
 学名: *Lycodon semicarinatus*
 背面は赤褐色で、黒色の斑紋が並ぶ。体鱗列数は17。トカゲやへびなどの爬虫類を中心に様々な脊椎動物を捕食し、地域によっては孵化直後のウミガメも食べる。平地から山地にすみ、人家のまわりにもいる。性質は荒く、よく咬みつく。



【特定外来生物】
タイワンスジオ 原産地:台湾 180~270cm
 学名: *Elaphe taeniura friesii*
 体色は濃い黄色。背面および体側面の暗色斑は黒く大型で、交互に入る。体鱗列数は25か27。哺乳類や鳥類などを食べる。台湾原産。うるま市や沖縄市などで分布を広げている。ネズミ類や鳥類を好んで食べる大型の外来捕食者であるため、沖縄の固有種に深刻な影響をおよぼすおそれがある。



ガラスヒバア 80~110cm
 学名: *Hebius pryeri*
 背面は黒や黒褐色で、脚に黄色や白色の帯模様。体鱗列数は19。カエルなどを食べる。溪流や湿地、水田などの水辺でよく見られる。体型は細長く、体長の3分の1を尾で構成する。毒の牙を持っているが、人に対する深刻な咬傷例は知られていない。沖縄の方言名ガラスヒバア(ガラスヘビ)がそのまま和名になった。



ハイ 30~60cm
 学名: *Sinomicrurus japonicus boettgeri*
 背面は赤褐色で黒い縦線が入り、その縦線を寸断するように白色で縁取られた黒い横線がある。体鱗列数は13。メクラヘビやトカゲなどを食べる。強い毒を持つが、小型で口が小さく、性質もおとなしい。ナフサー(沖縄方言名)。**準絶滅危惧 (NT)**



【特定外来生物】
タイワンハブ 原産地:中国南部、台湾 80~130cm
 学名: *Protobothrops mucrosquamatus*
 背面は灰褐色の地に楕円形の模様が背中と体の横側にジグザグに並ぶ。体鱗列数は25。ネズミやトカゲ、カエルなどを食べる。低地から山地、森林まで幅広い環境に生息する。気性が荒く攻撃的。中国南部、台湾、インドシナ半島北部原産。ハブ酒に用いるため輸入されたものが逃げるなどして、名護市などで急速に分布を広げている。



【国内外来種】
サキシマハブ 80~120cm
 学名: *Protobothrops elegans*
 背面は変異に富み、褐色または灰褐色の地に楕円形の模様が背中と体の横側にジグザグに並ぶ。黄褐色で模様が不明瞭なものや、赤褐色の個体もいる。体鱗列数は25。ネズミやトカゲ、カエルなどを食べる。山地から平地にまで生息し、人家のまわりにもいる。ハブより毒は弱く、動きも遅い。元々は八重山に生息するが、糸満市で逃げて南部地域で定着している(国内外来種)。



ハブ 130~240cm
 学名: *Protobothrops flavoviridis*
 背面は黄色か白の地に黒い複雑な網目模様。体鱗列数は37。さまざまな脊椎動物(哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類)を食べる。平地から山地の森林、草原、水辺、農地に棲む。地表でも樹上でも活動する。非常に攻撃性が強い。



ヒメハブ 40~80cm
 学名: *Ovophis okinawensis*
 背面は灰褐色か黄褐色の地に黒い斑紋。体鱗列数は23。哺乳類、小型鳥類、トカゲ、カエル、魚類などを食べる。ハブの半分ほどの体長だが脚が非常に太い。カエルが大好物のため、水辺を好む。動きは鈍くじっとしていることが多い。ニープヤア(沖縄方言名)。



大宜味村、東村、国頭村で
 タイワンスジオや
 タイワンハブを
 見かけたら?
 やんばる野生生物保護センター
 ☎ 0980-50-1025

沖縄島では、外来へび類であるタイワンハブ及びタイワンスジオが野生化し、分布域は拡大の一途をたどっています。沖縄島北部(やんばる)地域のうち、大宜味村、東村、国頭村の三村には、そこにだけ生息している多くの動物がいます。外来へび類がひとたび定着すれば、在来へび類との競合のほか、ヤンバルクイナやオキナワトゲネズミなどの希少種にも多大な影響があると考えられています。やんばる三村ではまだ数例しか確認されていませんが、早期発見と初期防除が極めて重要です。

